

ON AIR

NO. 115

放送大学通信 オン・エア

発行月 2014年8月

発行 放送大学

〒261-8586 千葉県美浜区若葉2-11
043-276-5111(総合受付)

CONTENTS

特集:面接授業	1
学生座談会〜“学び”の仲間を増やしたい〜	6
叢書感想文コンクール	10
研究室だより	12
学習センターだより	13
2014年度開設改訂科目紹介	14
科目群履修認証制度エキスパートについて	18
学園ニュース	19
インフォメーション	20

特集
面接授業

面接授業への誘い

—地域学習センターいきいき授業—

京都学習センター所長 藤原 勝紀

放送大学は、年齢・職業・居住地を問わず、学ぶ意欲をもつ全ての方々に、いつでも・どこでも・だれでも学べる、生涯学習と遠隔高等教育のパイオニア的通信大学です。学びと教育の中心システムである授業を、主に放送授業で行う点が特徴です。本学は、遠隔性の強みと双方向性の弱さを認識し、全国の学習センターで対面式の面接授業・研究指導システムを備えるなど、双方向性のある学習環境整備によって成果を挙げてきました。

学生は、①放送教材と印刷教材を遠隔教育手段にする放送授業を中軸に、②対面式の面接授業・研究指導システムを補完的手段にした授業との組合せで学びます。高度で洗練された定評ある約300科目が、BSデジタル放送・インターネット配信などで提供されます。近い将来、オンライン授業という双方向型遠隔授業が実現される方向です。

こうした今・ここで、改めて直接対面して行う双方向型の「面接授業」に注目することは、学生生活と広く暮らしの場で人との関わりを通じて学ぶ、豊かな生涯学習の在り方を考えることにも繋がってきます。面接 (interview) とは、ともに (inter)・みつめ合う (viewing) の意味と言われます。直接に対面して授業に携わると、まさに相互・双方向的に、自らをみつめ合う生身の体験的な学びの場であるこ

とを実感します。

面接授業では、生涯学習と遠隔教育の在処と推進力が、受講生との双方向型の直接体験学習にあることを痛感します。先生方からの感想として、「よく質問される。専門外の

ことで専門的なコメントがくる。生活密着型の熱心で旺盛な学習意欲。人生を豊かに楽しむ本来の学びの姿」など、生涯学習大学ならではの学生気質が語られます。

「利用の手引き」には、「面接授業は、直接担当講師から指導を受ける授業で、一般にスクーリングと呼ばれる正規の授業です。京都学習センターでは、室内の講義だけでなく、フィールド学習を取り入れた科目を数多く開設していますので、多様な授業を体験することができます。」と案内しています。スクーリングは、通信教育や放送授業の補完的授業という消極的印象ですが、面接授業は、より積極的に独自・地域性のある授業です。

京都学習センターでは、所属の客員教員による面接授業を中心に、定期講座・特別講義・学習懇談会などの対面式授業を活発に行いながら、堅実なりべラールアーツ学習に応じる多様な面接授業、茶の湯や



文学など京都の歴史と文化が醸す地域感ある面接授業、とくにフィールド学習で構成する面接授業を伝統の京都学習センター産品として充実を図っています。

最近のフィールド学習型面接授業例。稚魚の生態に学ぶ森里海連環（田中克先生：京大舞鶴水産実験所）は、森は海の恋人への想いと震災・防災の学びに。ダイナミックな太陽の姿にせまる（黒河宏企先生：京大花山・飛騨天文台）は、世紀の日食観測の地域活動と学生サークル誕生に。樹木と風景ウォッチング（森本幸裕先生：下鴨神社社の森など）は、雨庭・和の花・生物多様性条約・津波震災復興と鎮守の森への学びに、と室内・フィールド・地域活動・自分の暮らしへと繋ぎ・結び相互に活性化しながら展開されました。さらには海洋生物の多様性（白山義久先生：京大瀬戸臨海実験所）、激変する地球環境（瀬戸口烈司先生：京大総合博物館）、果物の品種改良と苗木の生産（山下研介先生：京大附属農

場）、わが国の牛肉生産の課題（北川正幸先生：京大附属牧場）、果物からの酒・洋酒伝来物語・清酒とビール（天知輝夫先生：全国各地の醸造所）など、自然環境から食の楽しみまで講義名のみ紹介してきた所で、以下の6学習センターならではの地域性に溢れる洒脱・軽妙で魅力的な面接授業の紹介とともに、臨場感に満ちた『お酒のはなし：その息遣いを聴く』（古賀邦正先生）に委ねます。

放送大学に学ぶ方々には、本特集も参考に、モラトリウム学生にはない豊かな学生気分で、なるべくなら単位やキャリアなど気にせず、面接授業の全国ツアーを目論むなど、魅力ある自然・知・人・地域と出会い、視聴覚中心の放送授業では味わえない、嗅覚・触覚・味覚を加えた五感・全身型の直接学びの体験から、生涯学習ネットワーク・放送大学学習センターでの学びの実際を、広く地域の人々に伝え語り合って頂きたいと思います。

全国の 面接授業

面接授業は、全国の学習センターで年間約3,000クラスを開講しています。中でもユニークな面接授業をいくつかご紹介します。

全国の面接授業 ①

青森学習センター



白神学 ― 白神の動物と植物

担当講師/石川 幸男(弘前大学白神自然環境研究所教授)、他
実施日/2014年7月5日・6日

受講者の感想

湯本 鏖三さん
全国15学習センターから27名の受講生が集い、弘前大学白神自然環境研究所の先生方の学術的な解説を聞き、弘大白神自然



観察園及びブナ林を散策し、白神の植生や昆虫等の説明を受け、白神山地の一端を学ぶことができました。

安達 雅子さん

世界遺産に興味があり参加した面接授業ですが、氷河期を生き長らえて発達し続けた森、豊かな生態系等々について先生方の熱心なお話を伺い、学んで初めて分かるという「いぶし銀」の魅力一杯の白神のファンになりました。

白神山地のブナ林が作る豊かな生態系は、白神山地が世界自然遺産として登録された際にユネスコによって認められるほどに、世界的に重要な普遍的な価値を有しています。古くから人間が利用してきた部分もあるものの、原生的な状態を維持しているこの地域のブナ林生態系は、ブナ林生態系が分布するヨーロッパ東部、北アメリカ北東部と東アジアの中でも有数の、豊かな自然を維持しています。このことは一方で、今後予測される地球レベルの環境変動に対するブナ林生態系の反応をモニタリングする重要な地域であることも意味しているのです。

白神山地の世界自然遺産地域には植物が500種以上生育し、それに依存するニホンカモシカやツキノワグマなどの哺乳類、本州では分布がごく限られるクマゲラなどの鳥類を始めとした動物相も保たれています。これらの内容を、室内での講義に加えて現地での観察による実体験も通して、理解することがこの授業の目標です。

全国の面接授業②

山形学習センター



出羽三山の歴史と文化

担当講師/荒木 志伸(山形大学基盤教育院准教授)

実施日/2014年5月31日・6月1日

出羽三山は月山・羽黒山・湯殿山の総称で、江戸時代以降、東日本の各地から多数の参拝者が訪れた山岳霊場です。古くからの歴史的文物が残り、元禄2年には松尾芭蕉も来訪したことで著名です。

平成26年は羽黒山の午歳御縁年にあたる特別な年です。現地を受講生が自らの足で歩き、国宝五重塔など数々の重要文化財に直接に触れることで、出羽三山の歴史と文化について理解を深めることが授業の目的です。

受講生からは、三山の開祖である蜂子皇子尊像の特別公開や、滞在した宿坊での精進料理や早朝の護摩焚きなど、特別な体験ができ、感動したとの声が多く聞かれました。また、北は北海道、南は沖縄からの参加があり、全国を受講生同士の情報交換や交流の場として、たいへん有意義であったようです。

何より、自然のなかで学ぶことの楽しさを発見し、羽黒

山に登拝した達成感がかえがたい機会となったでしょう。

講義では、江戸時代に出羽三山が東日本全域から参

詣の人を集めたことで、現在の山形の街並みが発展し、種々の伝統産業の繁栄に大きく貢献したことも解説しました。県外はもちろん、地元の参加者からも、出羽三山が全国規模のスケールをもった霊場であった事実を知らなかったと、驚きの意見が多く寄せられました。身近な存在であっても新たな視点で光をあてることで、新鮮な発見につながる経験は、今後の学びの姿勢にも大きな影響を及ぼすことでしょう。



全国の面接授業③

東京足立学習センター



本郷〈東京都文京区〉の文学空間

担当講師/神田 由美子(東洋学園大学教授)

実施日/2013年10月23日・11月13日



東京都文京区の「本郷」という地域は、明治10年に加賀前田藩の屋敷跡に東京大学が設置されて以来、日本の近代化に大きな役割を果たしてきた。また、明治時代から現代まで多くの文学者が居を構えてきた。

本講義では、様々な文学作品の舞台となった「本郷」の魅力を、そこに関わった文学者の生涯や文学作品から分析した。また、最新のものと歴史あるものが混在する本郷の景観から、東京という都市の重層的構造を学んでもらった。

始めに、森鷗外が「雁」で描いた無縁坂の意味を論じ、下町文化と山の手文化の境界としての本郷の特色を探究した。次に、樋口一葉の生涯と文学に本郷がど

のような影響を与えたかを考察した。さらに、夏目漱石の「三四郎」を取り上げ、大学生や知識人の描写を通して、日本の近代化を先導した本郷の様相を究明した。そして最終授業では、坪内逍遙・石川啄木・宮沢賢治・樋口一葉の旧居跡、徳田秋声旧宅、三四郎池、湯島天神、枳殻寺、無縁坂、不忍池などを巡った。

学生からは、「明治の文豪たちの作品に対する思い、生活ぶりが理解できた。作品の解説を聴いた後で、作中に描かれた場所を歩くことは楽しかった。明治小説の登場人物になったような不思議な感覚を味わえた。」などの感想が聞かれた。



全国の面接授業④

東京多摩学習センター



学ぼう指揮法!

担当講師/山本 訓久(東京学芸大学教授)

実施日/2014年5月10日・11日

本学で面接授業「学ぼう指揮法!」を担当して2年目となりました。最初に依頼を受けた時、果たして指揮法のように専門的な科目が面接授業にふさわしいかどうか随分迷いました。しかし実際に2年間担当した結果、生涯学習としての音楽分野で指揮法の演習が役立つことがわかりました。特に今年度は履修生の方々の熱意に圧倒されて質問攻めに合い、より中身の濃い授業を行なうことができたのではないかと感じています。

きます。最初に指揮台に立つときは皆さん緊張感が漂っていますが、慣れるにしたがってどんどん頼もしい姿に変身します。このように音楽を創造する臨場感を味わえるのが面接授業の醍醐味でしょうか。音楽する喜びを少しでも多くの履修生の皆さんにわかっていただけるよう精進する所存でございます。

受講者の感想

中山 敬裕 さん

指揮動作や楽曲分析の説明があり、「受講生」合唱団やピアノ独奏を指揮する流れで進みました。最初の頃は「一拍目が分からない」「テンポが一定しない」など、動作を理解するので精一杯でした。徐々にコツがつかめて「この部分は、拍打ちはこの大きさで、左手はこう動かせばよい」と、曲の解釈を合唱や独奏に伝えられるようになりました。授業での話が音楽学や楽典に関連することもあり、興味深い内容でした。



※写真は前年度のものです。

この授業では、履修生による合唱を一人ずつ交代で指揮し、互いに「指揮する立場」と「指揮される立場」に立ち、いわば自分をモニターしつつ演習を重ねて行

全国の面接授業⑤

京都学習センター



お酒のはなし:その息遣いを聴く

担当講師/古賀 邦正(放送大学京都学習センター客員教授)

実施日/2014年7月5日・6日

有史以前に生まれたお酒は、いつの時代も人々に愛され、人々の生活に彩りを添えてきました。現在、種々のお酒が世界中で広く楽しまれています。その美味しさの理由や愛される理由となると様々なことが関わっており一筋縄ではゆきません。

この授業では、まず、どのような種類のお酒がどのような歴史をたどって今あるかについて学びます。そして、お酒の量的主成分であるエチルアルコールの味を感じるメカニズム、エチルアルコールと水の相互作用の不思議さ、お酒に及ぼすミネラル成分の役割などについて学びます。

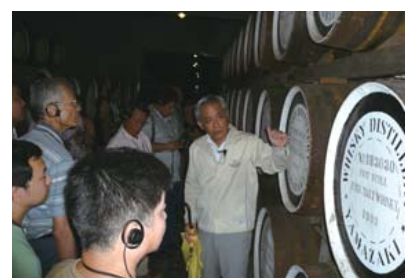
さらに、代表的な蒸留酒であるウイスキーは永年樽貯蔵することによって、その品質は飛躍的によくなり、「美德の味」とまで表現されています。ウイスキー造りに関しての、実際の貴重な経験も含めて、その素晴らしさ、不思議さについて学びます。その上で、ウイスキー造り

の現場を見学します。

発酵物の代表であるお酒の面白さと奥深さを学ぶ授業にしたいと思います。

受講者の感想

- ・現役チーフブレンダーのご経験に基づいたお話は深みがあり、大変興味を持てた。
- ・それぞれの専門分野の方からの講義や解説があり、理解し易く良かった。蒸留所での講義が何より良いと思った。
- ・講義内容がとても詳しく、知らなかった事も多く、とても興味深かった。
- ・それぞれの酒類の生い立ちが解り、酒に対する思いが深まった。
- ・様々な種類の醸造について学ぶことができ、その違いを認識することができた。
- ・お酒についての歴史は特に面白く興味深かった。



全国の面接授業⑥

鹿児島学習センター



鹿児島湾洋上実習

担当講師/内山 正樹(鹿児島大学水産学部准教授)、他
実施日/2014年5月31日・6月1日

『鹿児島湾洋上実習』は、鹿児島大学の練習船「かごしま丸」に一泊し、海洋資源に関する講義ならびに鹿児島湾内の航海実習や海洋観測を体験する1泊2日の体験型合宿授業です。採泥やプランクトン採集などを通して海洋観測を体験したり、漁具操作などを学んだりします。身近にありながらあまり意識することのない海洋を、湾内実習することで“生きている海”を実感し、人間と海洋環境・資源との関わりについて考えを深められたと思います。

受講者の感想

- ・漁業や海に関する事項を多く学べ、水産学や水産業、船舶に関心がわいた。
- ・海の恩恵を受けながら海を守る事をもっとしっかり考えなければならないと感じた。
- ・実際の操船や、CTD観測

など滅多に体験できないことを実習で直に体験できた。貴重な体験でとても充実した2日間だった。

- ・船内での宿泊学習なので、他の受講生の方と交流を深めることができ非常に楽しかった。
- ・船上での生活という非日常的な空間での生活を知ることができ、とても有意義だった。
- ・鹿児島県外からの受講生も居り、意見交換等ができて交流も深まり、とても刺激になった。
- ・未体験のことが多かったが分かり易い指導で参考になった。
- ・鹿児島湾の素晴らしさを再認識しました。
- ・海のことについて何も知らなかったことに気付かされた。



第2学期の面接授業追加登録について

9月に行う学期当初の科目登録後に空席のある科目を「面接授業追加登録」という手続きで、学期途中でも科目を登録することができます。ご自身の都合に合わせて、ぜひこの機会に面接授業にご参加ください。

空席のある科目の発表日 10月17日(金)

学習センター、サテライトスペースでの掲示と、キャンパスネットワークホームページでお知らせします。また、10月25日(金)13時以降は、システムWAKABAで最新の空席状況を確認することができます。

システムWAKABA → 科目登録申請 → 申請種別「面接授業追加登録」空席照会

追加登録期間 10月24日(金)～科目ごとに定められた追加登録期限日まで

(原則として開講日の1週間前。一部、授業の都合により追加登録を受け付けられない科目があります。)

申請の際に必要なもの

- ・面接授業科目追加登録申請書
(学習センター等にあります。キャンパスネットワークホームページからもダウンロードできます。)
- ・学生証(郵送受付が可能な場合は、コピーを同封)
- ・授業料(1科目5,500円)

追加登録の申請方法

追加登録の申請方法は学習センターによって異なります。くわしくは「平成26年度第2学期面接授業開設科目一覧」をご覧ください。授業を実施する学習センターに直接お問い合わせください。



学生同士で支え合うピア・サポート最前線

“学び”の仲間を増やしたい



学生間で“学び”の助け合いができる仕組みを——『アクションプラン2012』ではピア・サポートの推進が謳われており、全国の学習センターで学生によるさまざまな取り組みが展開されています。今回の学生座談会では、中でも特徴ある取り組みをされている神奈川・岐阜・愛知の各学習センターからリーダーとして活躍されている学生の方々と、そして学生サポートのためのサークルを立ち上げたばかりの千葉学習センターの学生の方をお招きし、その活動内容や抱負などをお聞きました。※本文中は敬称略とさせていただきます。

ご出席いただいた4名の学生の方々
安田 武夫さん(神奈川学習センター)

奥田 孝道さん(岐阜学習センター)

引野 桂子さん(千葉学習センター)

森 直重さん(愛知学習センター)

司会

小寺山 亘教授(放送大学副学長)

相談者が入学——その喜びに支えられて

小寺山 本日はお集まりいただきありがとうございます。さっそくですが、皆さんは所属される学習センターで学生サポートの推進役として活躍されています。その活動内容などをお伺いしたいと思います。では、安田さんからお願いします。

安田 話は2007年度に遡ります。どこの学習センターでも同じだと思いますが、神奈川でも学生にとって身近な機関誌の発行、バス研修旅行の企画・運営等を教員と事務職員の方々だけで行っており

ました。また、学習相談もセンター業務の一つですが、当時の濱田センター所長は「教員だから学生の相談にのるのは仕事だ」としながらも、「でも実際の相談の申込みは年に1、2件程度」と吐露されています。そこで、これじゃどうにもならん、ということで、また学生ニーズを充分くみ取って機関誌編集やいろいろな企画に役立てたいと「学生さん、センター活動を手伝って」と呼びかけられたのです。その結果、2008年4月に5つの学生ボランティアチームが立ち上がりました。その一つが「学習支援チーム」です。早く始めるのが肝心と4月には談話

室の一角で10人ほどで学習相談会を始めました。どんな相談が舞い込むか、当初は不安でいっぱいでしたが、何とかこなしています。ただ、卒業要件の単位数を把握していない人が多いのには驚かされました。今学期もすでに5、6件ありました。そうこうするうちに、センターから今度は「学生募集も手伝って」と言われまして、オープンキャンパスの際の入学相談会や入学前個別相談会に対応しています。こちらは一応有給ですが、オープンキャンパスの際には学校側の説明終了後に短時間で行う必要から相談員を増員しますが、この人たちは無給です。7・8月と1・2月の土・日曜日に年4回開催、毎回20人以上の方が相談に見えますから、個別相談会も含めて全体で100人くらいの方々の入学を後押ししていることになるでしょうか。相談に見えた人の顔を「入学者の集い」で再び見るのは嬉しい限りで、活動の原動力になっています。センターからも、学生募集に効果あり、の評価をいただいています。

小寺山 チームに別れてとのことですが、「K-サポート」というのはその総称ですね。本来センターが担う仕事を「K-サポート」が手伝っておられますが、各チームはサークルではないのですか。

安田 現在、「学習支援チーム」、「機関誌編集チーム」「バス研修・行事サポートチーム」「地域連携チー

ム」が「K-サポート」として活動しています。その担い手となる学生を募集する際はサークルを通じて行ったので、サークルの代表とメンバーなどがどのチームにも入っています。でも、サークルとは別組織です。**小寺山** 分かりました。では、千葉学習センターの引野さん、お願いします。



引野 私どもの「放送大学まなびー・ちばサポート」は、千葉学習センターの要請を受けてサークルとして立ち上げました。その目的は「学生生活の効果的な支援、および地域社会との連携による大学の発展活動等、学びのつながりの実施」というものですが、実は産声をあげたのがつい先日の7月2日。ですから、全てこれから、という段階で、本日は皆さんのお話を参考にしたいとの思いから出席させていただきました。

小寺山 「地域社会との連携」という言葉が入っていますね。普通、学生サポートというと学内の学生さんだけに目が向きがちです。

引野 千葉学習センターでは、昨年度から地域貢献プロジェクト「学生と地域社会の幅広い世代との相互交流プロジェクト」を推進しています。地域の学校等に出向いたり、千葉学習センターの「秋祭り」に招待したりして交流と対話を深める、というものですが、サークルとして何ができるか、はまだ議論も始めていない状況です。確かに、地域連携が学生サポートにつながれば素晴らしいのですが…。現段階では、毎月第1水曜日に例会を行うことと、私どもの世代が苦手なパソコンの勉強会を学習相談会のいちメニューにできないか、といった話が出ているぐらいで、何ができるかは全てこれからです。

小寺山 でも、自ずと決まってくると思いますよ。キャンパス型の普通の大学では、学生はキャンパスや教室で学生同士で情報交換して修学上の疑問や悩みを解決しています。一方、放送大学の学生は学習センターにしょっちゅう来る訳ではありません。通信指導ってどんなもの？ 受けた科目が受けられなかった、そもそも科目登録って何？といった基本的なことを分からないままにしている方は結構多いと思います。センター職員に尋ねてもらえば大概のことは分

かるのですが、こんなこと聞いていいのかしら、と遠慮される方もいらっしゃる。そこで学生サポートの登場となる訳です。同じ学生同士なら気楽に相談できる、そこがやはりメインになるのではないのでしょうか。あとは、どうやって相談したい学生との接点を持つか、だと思います。岐阜学習センターでは、その答えとしてきめ細かな対応をされているようですが、奥田さん、具体的にお話いただけますか。

学生との出会いの場を大切に

奥田 はい。岐阜学習センターには学生有志によるナビゲーター制度があり、ナビゲーターが機会を見つけては学生と接しています。2011年に岐阜学習センターは20周年を迎え、私はその実行委員会に



奥田孝道さん

入りました。その機会を得て、もっと多くの人に放送大学のすばらしいシステムを知ってもらってはどうか、と提案してできたのがナビゲーター制度です。学習センター所長の委嘱というかたちです。現在、センターおよび多治見分室合同で31名、高山分室で12名が活動しています。活動内容はというと、放送大学のPR活動全般と学生サポートです。学生による公開講演会の企画段階から運営まで参画して通常は教員が行う講師役を務めたり、講演会後の先生を囲んでの茶話会の準備や受付、大学説明会での体験発表をはじめとして来場者への資料説明から個別相談、施設の案内まで幅広く活動しています。また、例えば岐阜市老人クラブ連合会の総会——500名ほど集まるのですがそこで放送大学のPRをしたり、安八町主催の寿大学で講師を務めたり、と学外活動にも積極的に取り組んでいます。加えて、岐阜学習センターには6つのサークルがありますが、サークル間交流による学生サポートも盛んです。例えば、サークルの一つ「リフレッシュサークル」では奇数月には学生が講師を務め、学生との出会いの場を増やすようにしています。

小寺山 ナビゲーターとサークルが一緒になって学生サポートを行っている、と。学生同士が結びつき共に支え合う、そんな文化が岐阜ではすでに根付いていますね。愛知学習センターはいかがですか。

欠かせないセンターと学生の協働精神

森直重さん



森 愛知学習センターでも、退学・休学者が出て、なかなか学生数が増えるように、2005年に始まったのが年度別クラス会です。当時の記録

に、主旨が述べられていました。「3,000人の学生一人一人を、心の糸で結ぶことは難しい。学生サポートといってもセンターだけでは平均的なことしかできない。学生同士が刺激し合うのが良い」と。そこで、同年度入学生の修学上の問題に対し、相談する場、情報交換する場を設け、学生相互が協働、支援することを目的にクラス会を立ち上げたのです。ところが2年も経つと、うまく機能しなくなりました。クラス会が2年も経過すると、学生の集まりが悪くなる傾向がありました。なぜか…。そこで2009年以後私どもは二つの改善策を講じました。一つはテーマの途中チェンジです。修学上の問題は、1、2年度では、共通する関心事ですが、2、3年もするともう自分で解決できる訳です。だからクラス会への足が遠のく。そこで3年目あたりから、主たるテーマを変更しています。“学び”を今後社会にどう活かすかとか、再入学あるいは大学院進学とか、同窓生が共通して関心の持てるテーマへの変更です。もう一つは連絡網の構築です。個人情報（連絡先）については、センターでは開示できません。そこで、「入学者の集い」でのPRや、クラス会初回で自主登録をお願いしています。絶対にクラス会の連絡にしか使わない、メールもBccで送る、ということをご了解いただいて。そうですね、毎年およそ300名ほどの新入生が入学されますが、そのうち約120名ほどが登録されます。苦労して作った連絡網ですから、“心の糸”が切れないよう、クラス会内の連絡担当者から、毎月1回はメールを送るようにしております。この主たるテーマの途中チェンジと連絡網構築のおかげで、今のところは順調に機能しています。

小寺山 同年度入学ですから共通の関心事がある、それがクラス会維持につながっている訳ですね。ただ、入学したばかりの頃は分からない人ばかりが集

まってしまう。

森 おっしゃる通りです。初年度の集まりの場面では、みんな何も分かりません。そこで、学友会支援委員や、先輩クラス会が合流するという仕掛けを施します。コースごとのテーブルに必ず先輩を1名以上配置して、後輩の質問・相談に応じています。そういう仕掛けづくりは学友会にあるクラス会支援実行委員会が当たっています。クラス会は放っておいて上手くいくというものではありません。必要に応じてバックアップしなければなりません。

小寺山 岐阜と神奈川は先輩が後輩に、というタテの関係が中心であるのに対して、愛知では、どちらかと言えばヨコの関係——最初の頃は先輩も入るけれど、あくまでも同年度入学生同士というヨコ



小寺山巨教授

の関係が中心です。一般の大学では卒業するまで同じクラスでヨコの関係で結ばれていますが、それでも中心となってまとめる人が必要です。愛知の取り組みも自然発生的にはできない訳で、森さんたちのバックアップあってのことと思います。今、この学生同士のヨコの関係が学生のモチベーション維持に役だつのではないかとということで重視されており、従来は高校までだった担任制を大学でも採り入れる動きが広がっています。放送大学としても愛知の取り組みは大きな関心事の一つです。

奥田 質問をよろしいですか。4、5年もすると卒業される方が出ますね。その時クラス会はどうなるのですか。

森 卒業して再入学される方は、新しいクラス会に入っても良いし、これまでのクラス会に出ても良いことにしています。もっとも、大体5年ほどでクラス会は、発展的に解散する方向です。その頃になるとクラス会の役目は終わりますから。新しい年度クラス会の誕生に引き継ぐ訳です。

引野 その、入学年度ごとにクラス会を発足するときに、具体的にはどんな手順でどんな呼びかけをなさるんですか。

森 「入学者の集い」で“クラス会作りますよ”と呼びかけます。主に初年度に皆が関心を持てるようなことしか言いません。勉強の仕方とか科目の選び

方とか、学割の使い方とか人気のある先生は、とかですね。そういう話題でお互いに刺激あってドロップアウトを防ぎましょう、と。かく言う私もドロップアウトしそうになって助けられた一人です。そして約1カ月後に入学者全員に手紙「クラス会の開催と参加のお願い」を送ります。センター所長名と学友会長の連名で。面接授業と重なるなどして参加できない方には、次の連絡を送りたいので、と同封ハガキでの登録をお願いしています。

小寺山 センター所長名で送るということは、この活動はセンターが推奨しています、というメッセージになりますね。やはり、センターのバックアップがあるからできるのでしょうか。

森 学生サポートについてのイグニッション・スイッチを握っているのはどちらかと言えばセンターです。でもセンターだけで行っても、また学生だけで行ってもうまくいきません。あくまで協働精神で乗り切っています。初年度では、センター所長・学友会会長が、クラス会に出られて、同席でお話をいただく機会を設けております。まさに協働です。

奥田 岐阜のナビゲーター制度もそうです。会議や勉強会の召集はセンターでやっていただいています。会議や勉強会をナビゲーターとセンター職員が一緒になって進めています。ナビゲーターとセンター職員が適材適所でうまく融合して、結果入学者は増えている。ナビゲーターにとっても、学ぶ仲間が増えることはやはり嬉しいことです。何よりも、この活動を通してセンター職員と学生の間にあった溝というものがなくなったように思います。

安田 神奈川では、遠くから参加される相談員にはセンターに交通費を実費として支給してもらっています。中には受け取らないという方もいますが、一番遠くの大磯からは片道880円はかかりますから。ただ、そういう人ばかりを集めるとセンターも大変だから、遠くの人は出番を抑えるといった調整は私が行っています。

小寺山 今、奥田さんからセンター職員とのコミュニケーションが良くなったというお話が出ましたが、同じようなことはありますか。逆に困っていることとか…。

安田 良かったのは、職員と仲良くなってサークルの例会に使う会場がとりやすくなったぐらいですか

ね(笑)。反対に「代わって」と頼まれて、後でサークルの仲間に叱られることもあります…。

森 愛知では学生とセンター側とが、うまく協働しています。クラス会だけでなく、他の諸活動による相乗効果で、学友会イベントの参加者がほぼ倍増してきました。学生数も増加しています。クラス会運営で困ったことと言えば、突然、連絡がとれなくなる学生がいらっしゃることです。入院とか、親の介護のためとか。本当はそういう時にこそ手を差し延べるべきなのですが、難しい課題です。センター側に問い合わせても開示は困難です。こういう場合、どう対応すべきか、難しい問題です。

小寺山 サークルについて全国の学習センターを調べたのですが、千葉のように学生サポートをサークルとしてやられているところが結構あるんですね。「学生相互の親睦を図る」としてしていますが、単位認定試験のための対策を一緒に考えたり、次の科目登録はこれがいい、と教え合ったりして学習相談会のような活動を行っています。一方、神奈川、岐阜、愛知は、センター業務を委嘱されて学生サポートを行っています。先輩から後輩へのタテの関係で学生サポートを行うか、あるいは学生同士のヨコの関係で行うか。またサークルとして行うかセンターの委嘱として行うか、おおよそ座標軸が示されたと思いますが、千葉の引野さん、何か参考になりましたか。

引野 はい、とても参考になりました。神奈川には先日、サークルの会長はじめ仲間がお邪魔して学習相談会についての具体的なスケジュールや方法などを学ばせていただきました。また、本日は岐阜のナビゲーター制度や愛知のクラス会の取り組みなどとても興味深く拝聴いたしました。そして、「協働」という言葉は、私たちに大きなヒントを与えてくれるキーワードとなりそうです。未だ発足して間もなく、会員も10名ほど。いきなり全部のことはできませんが、足元を見つめながら、そしてセンターと「協働」しながらできることからやっていきたいと思っています。

小寺山 さて、時間がきてしまいました。今後も皆さん、ご活躍いただき“学び”の仲間をもっともっと増やしていただきたいと思います。本日はありがとうございました。

2013
年度

放送大学叢書 感想文コンクール



放送大学叢書感想文コンクール実行委員長
情報コース/教育支援センター 准教授

鈴木 一史

放送大学叢書は、放送大学の授業で用いられた印刷教材を、あらためて世に送り出し、放送大学における教育や研究を広く世の中に普及させることを目的として刊行されています。



2014年6月現在、放送大学叢書は様々な分野を対象に25冊が刊行されています。叢書の中には、刊行から数年たった現在でも、大手の書籍販売WEBサイトで人気となっているものも多く、叢書が扱っているテーマへの関心の高さがうかがえます。

放送大学では、放送大学叢書を読むことで教養を深めていただきたいという願いから、叢書感想文コンクールを開催しております。叢書感想文コンクールの応募対象者は、放送大学の学生をはじめとして、放送大学への入学を検討されている方、過去に学生であった方、放送大学に関心をお持ちの方で、毎年たくさんの応募があります。

2013年度も素晴らしい叢書感想文が多数（34件）寄せられました。応募者の皆様の熱意が伝わってくる叢書感想文に審査員一同、大変感動いたしました。応募者の皆様が普段から多くの本を読み、様々なテーマに取り組んで勉強・研究している様子がうかがえました。感想文を読んで、人が生涯にわたり「学び」と「学習」の活動を続けていく生涯学習の大切さを考えさせられました。

今回の叢書感想文コンクールでは、優秀賞が1件、佳作が3件となりました。以下に簡単な講評

の一部を記述します。なお、優秀賞の叢書感想文（尾仲敏郎さんの作品）は放送大学のWEBページに掲載されています。

優秀賞		対象図書
尾仲 敏郎	「西部邁の経済思想入門」を読んで	西部邁の経済思想入門
佳作		対象図書
乃一 裕宣	「茶の湯といけばなの歴史」を読んで	茶の湯といけばなの歴史
畑石 治	徒然草と時間の記録	徒然草をどう読むか
武田 晃	<なぜ>の探究	<科学の発想>をたずねて

優秀賞：「西部邁の経済思想入門」を読んで

尾仲 敏郎さん

丁寧な読み方をして内容の理解に努めていることがわかります。特に自分にとっての新しい発見を素直に表現していることや、会計学と経済学の比較をしていることが評価できます。

佳作：「茶の湯といけばなの歴史」を読んで

乃一 裕宣さん

感想文著者が日常の生活や体験や出来事を、叢書にある主張と照らし合わせながら解説している部分が興味深いです。特に、感想文著者による「よそおい」「しつらい」「回しのみ」に対する感想や主張は面白いです。

佳作：徒然草と時間の記録

畑石 治さん

徒然草から何を読み取ったかが、詳しく書かれています。徒然草や兼好について、さまざまなことを知った過程がよく描かれており、具体的にいくつかの章段を挙げている点も評価できます。タイトルに集約されるように、徒然草は、兼好がいきっている時間の記録であるという結論に説得力があります。

佳作：<なぜ>の探究

武田 晃さん

感想文のタイトルは、「<なぜ>の研究」となっていて、本書の特徴をよくとらえています。

放送大学叢書一覧

http://www.ouj.ac.jp/hp/o_itiran/sousyo/

優秀賞の作品はWEBページに掲載されています

http://www.ouj.ac.jp/hp/o_itiran/sousyo/pdf/20140214.pdf

「西部邁の経済思想入門」 を読んで

姫路サテライトスペース所属

尾仲 敏郎



経済学が仮説－演繹の作業だけでなく、仮説－検証のプロセスを重視した政策科学であって、常に実社会とのかかわりを意識し、理論と現実の分断を避けるために経済学者たちが相当な労力を投入してきたことを初めて知った。

本書は経済思想史の入門書カテゴリーに含まれるそうだが、その根底には理論と実際の結びつきをたえず意識しながら、歴史の流れの中で確認していこうとする著者の強い意図が見受けられる。学説史を通じて、経済事象に人間の経験世界を再構成する要因を求め、比較検討の材料として用いている点に面白さを感じるし、この著作に触れたことで、私自身が改めて経済学を学ぶ意義や醍醐味を味わってもらった。幅広い範囲を網羅した文献であるが、ここでは「ケインズ経済学の比較静学」と「動学的な成長理論」に絞り、若干の考察をしておきたい。このテーマは経済理論上、対照的な位置関係にあるが、お互いに補完し合っている重要な領域でもある。

私が最も印象深かったのは、第十四章の「ケインズ派の成立」から第十七章「新古典派総合」にかけての中心部分であり、かなりのページ数が割かれている。経済学を学んだ者であれば、ケインズ経済学がマクロ経済学(IS-LM曲線などの部分均衡分析)の代表格として同じ土俵におかれていると錯覚してしまうが、実際のところ、マクロ経済学と呼ばれるものは、のちにケインジアンと呼ばれる経済学者たちが数理的に理論構築したもので、ケインズが意図したものではないことを知り、本当に驚いた。確かに、貨幣ヴェール観から脱却し、モノの世界と貨幣の世界を上手に結びつけたのはケインズの貢献であり、それまでの新古典派とは異なる観点から新しい市場観(価格メカニズムの限界)や国家の役割(大きな政府)を定義し、大きなパラダイムシフトをもたらした。ましてや、その違った見解を持つ2つの理論、新古典派経済学とケインズ経済学を有機的に結びつけようとした「新古典派総合」などは論理的にも内部に矛盾を含むものの、それでも、あえて分析手法を一本化して理論の精緻化を考えだしたポストケインジアンの功績は大きい。経済理論が分化・多様化

していて、今なお、同じ経済事象であっても結論が大きく異なる。数量化したモデル分析が近代経済学の主流であるが、そこに至るまでの数多くの論争があった。

たとえば、単純にミクロを集計すればマクロになるはずだが、実際のところは事情が異なる。「合成の誤謬」という言葉に代表されるように、今日の経済学では、新古典派のミクロ経済学とケインジアンのマクロ経済学はアプローチの違いという大きな分断があり、お互いに上手に分析対象ごとに使い分けてきた。「新古典派総合」といっても、合理的な折衷方法にすぎない。ケインジアンがカバーしきれない部分を新古典派理論が補っているだけで、いかにも、合理的経済人を前提とした経済学らしい臨機応変な分析態度だと思う。

第十九章「貨幣の経済思想」では、貨幣数量説の是非について詳細に説明が加えられている。十九世紀のイギリスで議論された地金論争やイングランド銀行法の解釈論争(通貨学派・銀行学派)まで触れてある。ケンブリッジ経済学派の理論的な基盤形成過程やフリードマンに代表されるマネタリストの主張した新貨幣数量説の意義までを系統的に網羅しているのは非常に興味深かった。貨幣量の調整が物価水準に影響を与えることは当然だが、ケインジアンが所得や雇用の決定ばかりに重点を置き、インフレーション問題を第二義的に取り扱ったと著者が指摘する点は圧巻で、テキスト的な文献ばかりを読んでいたのであれば気がつかない点である。貨幣論重視の経済思想では、当然、市場への政府介入を極力抑え、“invisible hand(神の手)”と呼ばれる価格調整機能に絶対的な信頼を置くことになるのだが、逆に、レッセフェール(自由放任)と呼ばれる「成り行き任せ」の政策運営になることを危惧するのであれば、ケインジアンが言うように、可能な限り、公共投資を発動し、家計消費を刺激することで需要サイドをコントロールしていくことが妥当である。

つまり、市場が安定的か不安定か、この判断が重要と思う。市場の価格メカニズムがうまく機能しない状態であれば国家が積極的に関与していくのが適切だと考えるのが有効需要政策である。時代の趨勢とは言え、政府の適正規模・貨幣市場の安定化・実体経済と貨幣経済のバランスなど、何が正しく、どの部分が間違いであるのかは、一概には言えない。そこには、判断する人間が存在し、異なる政策思想が横たわっている。経済思想の数だけ、政策手法が存在する。事細かに分類し、整理した著者の視野の広さと分析の鋭さに驚く。(後略)

全文は放送大学ホームページに掲載しています。

http://www.ouj.ac.jp/hp/o_itan/sousyo/osirase/20140214.html

目は口ほどにものを言う？

私の専門は臨床心理学ですが、特にどのような研究をと問われた場合、表題のように答えています。「目は口ほどにものを言う」とは、広辞苑によれば「情をこめた目つきは、口で話す以上に強く相手の心を捉える」という意味だそうです。私の場合は口で話してくれなくても、見えたものが心を語ってくれるという意味です。インクを垂らして出来上がったインクブロットを提示して、それをどのように見ているかから、その人の心理的特徴を理解しようとする心理アセスメントはインクのしみ検査と呼ばれて、世界中で数多く発表されています。その中でもスイスの精神科医ヘルマン・ロールシャッハによって作成されたインクブロットが国際的に広く用いられており、ロールシャッハ・テストと呼ばれています。このテストが最も採用されている理由は、作成されたインクブロットが適当にいくつかのものに見えるという多義性を十分に備えているからで、ある意味芸術作品と言えるのではないかと思います。



ゼミ風景

●学生の声● 月に1回、M1とM2合同でアットホームな雰囲気でのゼミが開かれています。1人で行き詰ることなく、新しい視点を心得て研究を進めていくことができます。特に、入学1年目は先輩方の体験談を聴けたことで、修士課程2年間の見通しを持つことができ不安が和らぎました。毎回ゼミの後は、小川先生を囲んで昼食をとりながら、さらに交流を深めています。私たちにとって、ゼミは大変なことも喜びも共有できる仲間に出会える場です。(M2一同)

マルチモニタを使った遠隔ゼミ

僕の研究テーマは、超広義でのヒューマンインタフェース、つまりヒトと人工物(や自然物)との関係をより望ましいものにしていくための論考や技術開発ということになります。なお、技術といっても、いわゆる工学的なものだけでなく、心理的あるいは社会的技術も含んでいて、どうすればヒトが満足できるような経験を構築できるのかを考えています。(この説明は長くなるので、今年末には刊行予定の「研究者の省察」(近代科学社刊)という本を読んでいただければ幸いです。)こうした目的もあって、自分の身を実験的な環境に置くようにしています。

写真は自宅の研究室です。つい最近引っ越したので、昨年5月13日の「大学の窓」で放映されたのとは別の場所です。これはマルチモニタ環境で、27型ワイドWQHD解像度のパソコンモニタを4つと32型のテレビを置いています。

ゼミをしているところですが、愛知県など遠方の方

もいるのでネットを利用した遠隔ゼミです。右下モニタにSkype



ゼミ風景

を開いています。定時に全員がログインをして音声Skypeでゼミをします。全員社会人なので、日曜の夜にやっています。左下モニタがGoogle Driveで、学生さんは当日までに資料をアップしておき、それを使ってゼミをします。左上は、ゼミの途中で加筆する宿題一覧表です。それぞれの検討課題を忘れないようメモします。右上にはメーラーのThunderbirdを開いて、次回までの連絡事項をゼミのメーリングリストに送ります。この環境は、遠隔ゼミには最適なものだと自負しています。

千葉学習センター

千葉市美浜区若葉2-11 〒261-8586
JR総武線幕張駅、JR京葉線海浜幕張駅徒歩約15分 電話:043-298-4367



学習センター外観

「ザ・幕張」、その深い緑に囲まれた文教地区、放送大学本部と敷地を一にして千葉学習センターはあります。所属学生は約5,000名、附属図書館をはじめとする大学施設も近く、大変恵まれた学習環境にあります。当センターのモットーは「学びのつながり」です。学びの主体である学生たちが、互いの知見や社会体験について知り、さらに語り合いを通して、センター内外での交流活動をつくり深めながら、社会とのつながりを絶やさず、学びを継続していきます。誇りを持って生きてきた世代の方にも、未来に向けて皆で生きる営みを絶やさずにと願っています。一步一步ですが、つながる学びを促進する息づかいは、あちこちで聞こえ始めています。今年、学生団体活

動にピアサポートを行うサークルが誕生しました。20代から80代までという世代の厚みが魅力です。どのようなコミュニケーションでつながるのか注目です。また、新たなミニゼミも立ち上げました。社会人経験の無い若者支援の一環で、『なりたい未来を掴もう!』とキャリアカウンセラーのリードで始まっています。幅広い層の中で、若者たちが自己の感性をより生かせる基盤を作り出すことを期待しています。千葉学習センターでは、こうしてセンター全体で「学びのつながり」に向かっている最中です。10月11、12日には学生主体の秋祭りが開催されます。どうぞお越しください。私たちは、センター間のつながりも大切にしていきたいです。



学生による「コンサート風景」

沖縄学習センター

沖縄県西原町字千原1(琉球大学内 地域国際学習センター棟4階・5階) 〒903-0129
那覇バス97番「琉大東口」下車 徒歩5分 電話:098-895-5952

沖縄学習センターは、東は碧く広がる太平洋、西は慶良間諸島が点在する東シナ海を臨む眺望豊かな琉球大学構内にあり、沖縄県で最も人口が集中する中南部圏のほぼ中央に位置しています。



センター外観

平成25年度は「放送大学地域貢献プロジェクト」の活動に力を入れ、本島南部に位置する糸満市の各地域をフィールドに、「元気で豊かな農村」「安全で安心な農村」「自然豊かで美しい農村」づくりを長期目標に、精力的に活動をおこないました。

琉球大学農学部、沖縄県、糸満市、糸満市土地改良団体と連携をとり、農地水環境を調査・分析、その結果をふまえて維持・保全活動を実施しました。また、地域コミュニティとの結びつきをはかるため地元の

ハーリー(豊漁・海の安全を願っておこなわれる競漕行事)にも参加、環境学習会や講演会も開催し、専門家の知見を地元の方々と共有する取り組みもおこなっています。平成26年度はこのプロジェクトをさらに展開し、地域の小学校への食育活動も実施していく予定です。



ハーリー参加の様子

折良く、平成26年度より放送大学エキスパートの「地域貢献リーダー人材育成プラン」が新設されたので、これまで以上に、地域社会に求められるリーダーの人材育成に真摯に取り組んでいきたいと考えています。

沖縄学習センターでは、このプロジェクトの他にも面接授業や公開講演会、サークル活動など、沖縄ならではの特色ある運営をおこなっています。観光をかねて、ぜひ一度足をお運びいただければ幸いです。

臨床家族社会学（'14）

奈良女子大学名誉教授
(放送大学客員教授) 清水 新二



清水 新二 教授

2014年新規開講科目『臨床家族社会学』は、家族をめぐる具体的現象について原因論や実態把握というよりも問題対処論を中心とした問題解決志向性を強く意識したものです。すなわち、事例レベルのミクロ臨床から対策・政策レベルのマクロ臨床までを視野に入れた問題対処支援活動に力点を置いたものとなっています。

専門家の目に触れる以上に生活者としての私たち（退職者、主婦、勤労学生、NPO等民間団体活動家、行政官etc）に向けて、という編集方針を自覚的に出した結果です。内容的には、1章から3章までがそれぞれ「臨床家族社会学をどう理解するか」「臨床家族社

会学の基本的視点とアプローチ」

「臨床家族社会学と質的研究法」と題する、いわば基礎編であり、4章以下では学校臨床、非行臨床、犯罪臨床、精神科領域での家族支援、要介護高齢者と家族問題、自死遺族支援問題、家族生活と暴力問題への対処支援論などから成ります。多彩なテーマが取り上げられていますが、それは協力講師の長年にわたる臨床社会学的研究のエッセンスが詰め込まれたもので、各種の具体的問題を通底して上記の問題解決志向性に収斂していくものです。放送教材にも多様で具体的な体験的エピソードが豊富に説明されています。

学力と学習支援の心理学（'14）

東京大学大学院教授
(放送大学客員教授) 市川 伸一



市川 伸一 教授

学力に関する議論は、個々の内容に関する知識の有無、あるいは、全体的なテスト得点の高低に偏ってしまいやすい。また、教科の学習指導に関する議論は、教授法や指導技術の工夫に偏りがちである。

認知心理学は学習者の情報処理プロセスを考慮することで、意味理解、思考過程を考える視点を提供してきた。また、能動的な表現活動や他者との関わりを授業に導入することは、教師にとって学習者の状態を

把握しやすくするだけでなく、学習者自身にとっても自らの理解を確認し、促進することにつながる。

この講義では、こうした認知心理学的な視点に立つて、学力という概念をとらえ直すとともに、教科教育、探究学習、地域教育などの具体的場面を参照しながら、学習支援のあり方を考えていく。

認知行動療法（'14）

東京大学大学院教授
(放送大学客員教授) 下山 晴彦

新潟大学教授
(放送大学客員教授) 神村 栄一



下山 晴彦 教授



神村 栄一 教授

私たちは、誰しも環境からさまざまな刺激を受けて生活しており、強いストレスを感じた場合には、誰もが心理的な問題を抱えてしまいます。そこで、認知行動療法は、心理的問題を環境と人間の反応（認知、感情、生理、行動）の相互作用の中で形成され则认为ます。例えば、人間関係でストレスを感じる環境では、自分は嫌われていると考え（認知）、落ち込んだ気分（感情）となり、眠れなくて体調不良となり（生理）、他人に怒りをぶつける（行動）といった反応が重なり合って、

問題はますます深刻化していく悪循環が起きていると分析します。そして、来談者に適した、無理のない方法で少しずつ考え方や行動の仕方を変えることを提案し、悪循環を止め、問題解決をしていきます。この授業では、このような認知行動療法の理論、技法、実施手続きを再現ドラマ、現場取材、デモンストレーション等を用いて分かりやすく具体的に解説します。

国際法（'14）

九州大学教授 柳原 正治
(放送大学客員教授)



柳原 正治 教授

南氷洋における「調査捕鯨」についての国際司法裁判所の判決、ロシアのクリミア編入、核軍縮を求めて「核保有国」9ヶ国を国際司法裁判所に提訴したマーシャル諸島共和国、国連憲章上の集団的自衛権の意味など、今年についてだけみても、国際法が問題となっているケースがたくさんあります。これらの問題を個別に勉強しても、本当にその本質を十分に理解することは難しいだろうと思います。国際法を一つの体系としてまとめたかたちで勉強することが必要です。その

さいに、国際法が「法規範」として国内法と共通している部分と、国際法に特有の部分の2種類があることを会得することがなによりも重要です。そのことは、とくに第3章「国際法の形成と適用と解釈」において説明していますが、それ以外の、すべての章においても、同じ問題意識から論じています。また、放送教材では、印刷教材では触れられていない話題をかなり取り入れていますので、是非放送教材と印刷教材の二つを合わせて勉強してください。

大学マネジメント論（'14）

桜美林大学大学院教授 山本 眞一 桜美林大学大学院教授 田中 義郎
(放送大学客員教授) (放送大学客員教授)



山本 眞一 教授



田中 義郎 教授

大学改革が進む中、大学のあり方についての関心が高まっています。以前であれば、入試や就職など話題となる大学問題はごく限られたものでした。昨今はこれらに止まらず、ガバナンス(管理運営)、教育内容や方法、学生支援、社会貢献さらには大学改革そのものも含め、より多くの課題について議論が行われるようになってきています。それというのも、大学は社会の成長・発展に欠くことのできないものだという認識が、政府・産業界そして一般の人々の間で広く共有されるように

なってきたからです。ただ、大学は数百年の歴史と伝統をもつ複雑なシステムですから、これを動かすには大学の特性や役割についての深い理解が必要です。大学マネジメント論は、そのために用意された科目です。大学で仕事をされている役員・教員・職員の皆さんには、日頃の業務運営の手引きとして、また一般の方々には大学を考える際の参考に、この新科目を大いに活用いただきたいと願っています。

日本美術史（'14）

東京大学教授 佐藤 康宏
(放送大学客員教授)



佐藤 康宏 教授

日本美術は、高校までの授業だと「日本史」や「美術」の中に少し出てくるだけでしょうが、実は世界の美術史の中に置いてみてもおもしろいと感じさせるものがたくさんあります。そういうものが存在することをまず知ってほしいと思いますし、それらがなぜ、どんなふうになられ、見られてきたかを考える楽しみにも触れていただけたらと願っています。縄文時代から1940年代前半まで、日本でどんな造形が作られたのかをたどろうとするなら、取り上げるべき作例は無数にあるわけですが、知る

ことと考えることのバランスに配慮して選択し構成しています。

2008年から6年継続した「日本美術史」をもとにしながらも、放送教材・印刷教材ともあちこちに改訂を施しました。新たに加わった作例や説明によって、より日本美術史の多様な姿を伝えられるようになったと思います。しかし、教材はきっかけに過ぎません。社寺や博物館・美術館などで御自身の探索を進められますよう。

南北アメリカの歴史('14)

東京大学教授
(放送大学客員教授)

網野 徹哉

東京大学准教授
(放送大学客員准教授)

橋川 健竜



網野 徹哉
教授



橋川 健竜
准教授

南北アメリカ大陸という広大な空間とそこを流れた長大な時間の中に生成した歴史を、それぞれの大陸の歴史を研究する5人の歴史学者が最新の研究動向を盛り込んで講義をしています。北米大陸の歴史については、アメリカ合衆国の現代の国際関係における重要性から、高校教科書などでも多くのスペースが割かれていますが、中南米世界の歴史については重要な出来事や人名などをのぞけばあまり触れられていないのが現実です。今回の講義では、この中南米世界についても歴史を専門とする3名の研究者が登場し、従

来はあまり扱われなかった様々なテーマについて講じています。またこの講義の特徴の一つに、アメリカの先住民の歴史をクローズアップした点が挙げられます。ヨーロッパ人が渡来するまで両大陸の主人公として生活していた彼らは、すぐれた古代文明を産み出しましたが、その後植民地支配のもとでは厳しい生活を送ることを余儀なくされます。この授業では、古代文明の崩壊以降も今日まで粘り強く持続する先住民文化の歴史的意義を特に重視しています。

情報化社会と教育('14)

放送大学教授
(情報)

苑 復傑

放送大学教授
(情報)

中川 一史



苑 復傑
教授



中川 一史
教授

本書は情報化社会における教育のあり方と問題点を多角的な視点から考えるものである。それとともに情報技術の応用に関して用いられる様々な用語について基本的な知識を得る一方で、情報技術との関連を通して教育・学習の意味を考えなおすことを狙っている。

全15章は以下のような3部構成から成っている。まずⅠ(1～5章)では、情報と教育との間の関係を、その基礎に立ち戻って考え、高等教育を中心として、情報化社会のもつ意味と課題を考える。続くⅡ(6～10章)では、学習指導要領に見る情報化社会への対応及び小学

校・中学校・高校の取り組み、カリキュラムのあり方を論じている。そしてⅢ(11～15章)では情報化社会における各学校段階での情報リテラシーの実態とその意味、特にメディア教育によって育まれるメディア・リテラシーという能力の概要、位置づけとあり方、その歴史的変化と重要性について解説している。

放送番組では上記の内容に加えて、大学及び学校教育関係者などとの対談を取り入れて、さらに多様な観点を紹介している。

情報のセキュリティと倫理('14)

放送大学教授
(情報)

山田 恒夫



山田 恒夫
教授

コンピュータやインターネットに代表される情報通信技術(ICT)の普及はめざましく、それなしでは、われわれの社会が成り立たなくなっているといっても過言ではありません。また、ICTは、インターネットの発展を通して、人類に新たな活躍の場をもたらしました。すなわち、サイバー空間・サイバー社会の出現です。本来ICTは、人類に、より聡明で幸福な未来を約束するはずでしたが、ネット犯罪、サイバーテロ、ネットいじめによる自殺や過度のイン

ターネット依存など、負の効果も無視できないところにきています。本科目では、サイバー社会を生きるわれわれが身に付けなくてはならない、情報のセキュリティと倫理について学びます。サイバー犯罪の諸相と対処法、情報セキュリティの基盤技術、情報セキュリティマネジメント、プライバシーと法、情報倫理教育と人材養成について論じます。専門家をゲストとしてお招きしたり、ロケや資料映像を活用して解説します。

通信概論('14)

放送大学教授
(情報) 近藤 喜美夫

スマートフォン、カード利用など私達の身の回りでは、意識にのぼらないまま多くの通信技術が使われ、私たちの効率的で快適な生活が支えられています。しかしひとたび「通信」に注目すると、簡単そうに見える信号を伝え役立てる技術の中には、信号、符号、電波、アンテナ、放送、衛星、光、インターネット、暗号といった様々な概念が含まれていることに気がきます。「通信」は、このような概念が生み出された、工学、物理学などでの様々な発見、発明、また、数学な

どいろいろな理論を基礎とした興味深

い発想、工夫を積極的に取り込むことで発展してきました。

新しい技術や利用法などが注目される通信ですが、この科目では、これらの技術や利用法を可能とし、その基礎となっている考え方を中心として、「なぜ」という気持ちを大切にしながら学ぶことで通信を理解しようとしています。じっくりと「通信」の奥にある「おもしろさ」を一緒に見つけていきましょう。



近藤 喜美夫 教授

安全・安心と地域マネジメント('14)

東京大学大学院教授
(放送大学客員教授) 堀井 秀之

放送大学教授
(生活と福祉) 奈良 由美子

東日本大震災の教訓を導き出し、南海トラフ巨大地震に備えることが求められている。本授業では、まず、東日本大震災で起こったことを直視し、地域の安全・安心を実現するための要件を明確にする。自らの主体的な避難行動をもって命を守り抜いた釜石市の子どもの行動とその背景にあった津波防災教育を紹介する。次に、原子力発電所事故の要因を分析し、背景には専門分化・分業の弊害、絶対安全を求める心理という本質的な要因が存在することを論じる。両者を

比較することに

より、自然と正しく向かい合い、命を守る主体的姿勢の重要性を導き出す。後半では、既存の事例を紹介し、地域の安全・安心を実現する社会技術(社会問題を解決する広い意味での技術)のあるべき姿を論じる。各自が命を守るために、最善を尽くす状態を達成するために必要な組織体制、信頼の醸成、防災情報システム、支援組織の活動内容、支援活動の進め方、大学の役割などを論じる。



堀井 秀之 教授



奈良 由美子 教授

2014年度大学院開設改訂科目紹介

21世紀メディア論('14)

東京大学大学院教授
(放送大学客員教授) 水越 伸

メディアとはコミュニケーションの媒をするものごとのことをいう。たとえば母親に今までのことを感謝したい時、手紙で伝えるのか、ケータイからメールを送るのか、直接会って話すのか。「お母さん、どうもありがとう」という同じメッセージでも、それが乗せられるメディアのちがいによって意味合いや経験が異なってくる。これがメディア論の入口であり核心にある観点だ。「3.11」以降、日本は大きく変わるのかと思われた。しかし実際

は可能性と問題が入り交じり、混

沌としている。その奥底には情報技術の革新とメディア変容がうごめいている。この授業は大学院レベルなので、メディアの歴史、理論を踏まえつつも、さらにこれからのメディアに私たちがどのように関わっていくべきか、そのことを主体的に考え、実践していくための素養や術を提示した。実践的なメディア論のおもしろさとむずかしさをみなさんと共有できればと思っている。



水越 伸 教授

科目群履修認証制度

放送大学エキスパートについて



「科目群履修認証制度（放送大学エキスパート）」は、学校教育法第105条の「履修証明制度」に基づく、本学独自の制度である。放送大学が指定する特定の授業科目群（プラン）を履修し、申請を行うことにより、ある分野の学習を体系的に行ったことが証明され、放送大学長名で認証状や認証カードが交付される。現在、福祉、健康から宇宙、工学まで、27の幅広い分野のプランを開設している。

平成18年度に10プランでスタートし、平成19年度に16プラン、平成20年度に22プラン、平成23年度第2学期に24プランとこれまで着実に数を増やしてきた。平成26年度は、前年度の「情報コース」開設に伴う情報系の2プラン（「人にやさしいメディアデザインプラン」・「計算機科学基礎プラン」）と、地域貢献に関する1プラン（「地域貢献リーダー人材育成プラン」）を新設した。

本制度は主に、①卒業への道のりのステップ、②学習計画を立てる際の履修モデル、③学士とは別に特定の専門分野の修得証明、④ある専門分野を体系的に学ぶ際の道しるべ、⑤ボランティア活動参加のための知識修得、⑥認証状の取得そのものを目標、等で利用されている。卒業要件ではないため、必ず取得しなければならないものではないが、履歴書に記載したり、ボランティア活動等で認証カードを提示するなど、それぞれの目的に合わせて、広く学習および生活の場で役立てている。

全体的に心理学系（「心理学基礎プラン」等）や博物館系（「歴史系博物館プラン」等）が人気であるが、「健康福祉指導プラン」、「福祉コーディネータプラン」も開設以来、根強い支持がある。放送大学の学生は幅広い年齢層で構成されているが、退職や子育てが終わった後の人生設計として地域の福祉活動への参画を希望する方が多く、その分野を体系的に学ぶため、本プランを利用する。

平成21年度より「環境科学プラン」、「工学基礎プラン」の認証を取得することにより、千葉大学工学部都市環

境システム学科3年次編入学（社会人枠）の出願資格の一部を満たすことができるようになった。現在、放送大学より8名の学生が編入試験を経て千葉大学に入学した。

新設科目や閉講科目、科目の有効期限等の関係で、授業科目群は毎年度見直しているため、常に最新年度のパンフレットで認証取得条件を確認する必要がある。なお、認証取得条件を満たした場合の申請は、当該年度の翌年度第1学期中まで申請を受け付けている。（連携教育課）

これまでの認証状発行件数ベスト10

	認証状名(プラン名)	認証数
1位	心理学基礎 (心理学基礎プラン)	2,182
2位	健康福祉運動指導者 (健康福祉指導プラン)	1,964
3位	福祉コーディネータ (福祉コーディネータプラン)	1,745
4位	次世代育成支援 (次世代育成支援プラン)	1,003
5位	歴史系博物館活動支援 (歴史系博物館プラン)	992
6位	社会企画士 (社会生活企画プラン)	914
7位	芸術系博物館活動支援 (芸術系博物館プラン)	794
8位	異文化理解支援 (異文化コミュニケーションプラン)	681
9位	生命人間科学 (生命科学プラン)	638
10位	臨床心理学基礎 (臨床心理学基礎プラン)	591

(2014年3月現在)



キャンパスネットワークホームページが新しくなりました！

キャンパスネットワークホームページは、本学在学生の学びを支援するために開設している学習用総合webサイトです。このたび、学習支援機能の充実等のため、従来のキャンパスネットワークホームページを全面リニューアルし、新キャンパスネットワークホームページとして、2014年度第1学期からサービスを開始しました。

新キャンパスネットワークホームページの特長

1. 使いやすいシンプルなデザイン
2. スマートフォン・タブレットに対応
3. 情報のパーソナライズ化
4. 研究指導支援機能の充実
5. コミュニケーション機能の充実



自分が履修している科目やゼミに関する情報を見ることができます。こちらから、担当講師に対し、授業に関する質問ができます。



在学生全員に公開されている学習上の情報を見ることができます。ネット配信や単位認定試験の問題・解答などもこちらから見るができます。



科目別に授業に関する自由なコミュニケーションを行うことができます。
(2014年度第2学期以降に一部の科目について試行的にサービス開始予定)

大学からのお知らせ

大学からのお知らせを掲載しています。

履修科目・参加ゼミ

履修している科目、参加しているゼミが表示されます。科目名をクリックするとその科目の学習室の画面が表示されます。Web通信指導システムもこちらから表示させることができます。

バナーリンク

バナーをクリックすることで、システムWAKABA、インターネット配信、単位認定試験問題・解答、Web通信指導、面接授業ホームページ、セミナーハウス空室状況確認などのページを表示させることができます。



よくある質問とその回答(Q&A)や各種マニュアルを掲載しています。



大学が提供している学生メール(Gmail)を利用することができます。*



学生生活、学習全般、各種手続き、附属施設に関する情報を見ることができます。

学習センターからのお知らせ

自分が所属している学習センターからのお知らせが表示されます。他の学習センターを選択して追加表示させることもできます。

カレンダー

履修している科目(放送授業)、参加しているゼミに関するイベントがカレンダー形式で表示されます。

バナー例



*学生メール(Gmail)の自動転送について

「ヘルプ」のマニュアルのページに、学生メール(Gmail)に届いたメールを携帯メールアドレス等へ自動転送する方法を掲載しておりますので、ぜひご活用ください。

*「ヘルプ」に、キャンパスネットワークホームページの利用マニュアルを掲載しておりますので、ぜひ一読ください。

「名誉教授称号授与式」を挙

総務課

6月30日(月)に学長室において、昨年度3月末に退任された松村 祥子前附属図書館長、齋藤 高雅前教授及び臼井 永男前教授に対し、岡部学長より放送大学名誉教授の称号を授与しました。

今回の称号授与により、平成14年に名誉教授称号の制度ができてから、放送大学名誉教授の称号を授与された方々は27名になりました。

(前列左から)松村名誉教授、岡部学長、齋藤名誉教授、臼井名誉教授
(後列左から)吉田事務局長、吉田附属図書館長、小寺山副学長、
来生副学長、宮本副学長、岡田教育支援センター長



放送大学エッセイコンテスト2014年度作品の募集

学習センター支援室

第7回放送大学エッセイコンテスト2014年度作品を募集しております。
多くの方の応募をお待ちしております。

テーマ	「放送大学の学びを生かした私の地域貢献」※テーマに沿ったタイトルを自由につけてください。		
応募資格	放送大学の全学生		
応募内容等	①エッセイは、2000字以内。日本語で書かれたもの(未発表のものに限ります) ※ワープロ、手書きなど読み易い文字で作成してください。 ②エッセイ本文のほか、所定の応募票に、タイトル、氏名、学生番号、所属(コースまたは専攻・プログラム)、 学生種、所属学習センター、連絡先(住所、電話番号、メールアドレス)を記入してください。なお、電子ファイルがある場合はできるだけメールでご提出ください。 ③応募数は、1人1編に限ります。また、応募作品は、返却いたしません。		
提出先・問合せ先	放送大学学務部学習センター支援室 エッセイコンテスト担当 (essay-contest@ouj.ac.jp)		
提出方法	メールまたは郵送	提出期限	2014年10月14日(火) 消印有効
選考・発表	選考委員会で選考のうえ、入選者には2015年2月中旬にお知らせするとともに、放送大学ホームページ等にて発表します。		
入選作品	最優秀1点、優秀3点、佳作6点(予定) ※入選者には、賞状及び副賞を授与いたします。また入選作品は、ホームページ、ONAIR等に掲載の予定です。		

詳細はキャンパスネットワークホームページをご覧ください。

編 集 後 記

面接授業を特集した第115号をお届けします。私自身も、今年の1月に札幌、5月から6月にかけて福岡、7月に新潟の学習センターで面接授業を行ってきました。3学習センター共に、大変熱心な学生さんたちからの真剣な御質問も多くあり、講義する私自身も大いなる充実感をもって講義することが出来ました。また、札幌では学生さん有志による大歓迎会もイタリアンレストランを貸し切りにして開いて戴き、実に楽しいひとときでした。本当に有り難いことだと感謝致しております。少し余談になりますが、全国の学習センターで面接授業を行う際の密かな楽しみとして、各地の名店でディナーを(もちろん自腹で)戴く、ということがあります。「社会の中の芸術」で料理芸術論も講義している私としては、実地調査という意味もあるのですが、これまでの多くの素晴らしい味の記憶が、場の記憶として私の中に生きています。皆様も、地元の素晴らしいお店に是非行かれてみて下さい。(編集委員・青山昌文)

ご意見やご感想をお聞かせください。メールアドレス editor@ouj.ac.jp

放送大学通信 オン・エア 編集委員(2014年度)

委員長	教授	坂井 素思
委員	教授	井出 訓
	教授	御厨 貴
	教授	青山 昌文
	准教授	岡崎 友典
	准教授	森本 容介
	准教授	安池 智一
オブザーバー	副学長	小寺山 亘
編集事務担当		総務部広報課



放送大学

<http://www.ouj.ac.jp/> ISSN 1343-3369